

コフロック

窒素PSAでCO₂排出量削減ねらい需要に対応

PSAメーカーのコフロックは食品工場向けに窒素PSA『GENE-BASEシリーズ』を展開している。同シリーズはガスの製造コストやCO₂排出量を削減できるとしコストダウンや、カーボンニュートラルに取り組むユーザーから支持を受け導入が進んでいる。

船井厚志フローシステム事業部事業部長は「食品業界では品質保持期間（賞味期限）の延長を目的とした酸化防止用途で窒素ガスを使用するお客様が多い。液体窒素を使っている方もいらっしゃるが、同用途で求められる純度は一部商品を除き3Nが主流である。5Nの純度のみとなる液体窒素に比べるとお客様側に純度の選択肢があるPSAは、純度仕様を下げることで窒素製造時に発生するCO₂排出量を削減することができる」と説明する。

また、PSA由来ガスは製造場所と使用場所が同じであるため配送も必要ない。デリバリーレスであることから配送時に排出されるCO₂を抑えることも可能だ。

同氏によると「カーボンニュートラルの取り組みを進めているお客様は原材料や包装資材などのサプライチェーンにおけるCO₂排出量についても算出を始めている。お客様の製造工程で使用する窒素もその対象項目の1つであり、今後排出量の算出と、削減が求められる事となる。例え

ば、お客様の契約している電力が再生可能エネルギー由来のものであれば本機より製造される窒素は製造時においてCO₂を排出しない窒素として活用できるということだ」という。

ユーザーの脱炭素化に用いられている『GENE-BASEシリーズ』は2018年から販売開始した屋外設置型PSAである。2022年末にラインナップを加えたことで2023年3月現在、7.5kW、11kW、15kW、22kWの4種類を取り揃えている。

屋外仕様としてパッケージ化しているため工場屋内にPSAを置くスペースを確保する必要がなく屋内仕様品を屋外設置するための建屋や機器間の配管工事也不要。付帯工事費用も最小限としており、写真のようなオイルフリーコンプレッサーと同じような手軽さから、導入検討時の敷居を下げユーザーのコストダウンやカーボンニュートラル化に貢献している。

■コフロック ■075・983・3500

左のオイルフリーコンプレッサーのように手軽に設置できる GENE-BASE 22kW

